

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和3年度学校評価 結果・学校関係者評価

達成度（評価）	
A	十分達成できている
B	おおむね達成できている
C	やや不十分である
D	不十分である

1 前年度 評価結果の概要	①児童の主体的な学びの実現のために様々な手立てを工夫した結果、児童が主体的に考えを表出できるようになり、学力が着実に向上している。今後、児童の「書く力」を一層向上させるために、校内研での共通した取組を一層充実させる。 ②「ひがしっ子」の合言葉が、児童・職員・保護者に浸透し、連携して児童の運動習慣や生活習慣を向上させている。今後、「ひがしっ子」の合言葉が地域に一層浸透するよう、情報発信に努める。 ③キャリア教育推進のためにキャリアパスポートを継続的に活用し、自己有用感が高まり、夢や目標に対する児童の意識は向上している。今後、家庭と協働したキャリア教育の工夫や保護者への説明の充実に努める。 ④業務改善・教職員の働き方改革への職員の意識が変革しつつある。今後、生み出された時間の有効活用方法を探り、職員の魅力を一層伸長する。
------------------	--

2 学校教育目標	<b>みんなと確かに伸びる子どもの育成</b> ひびきあうあいさつ(体力・健康・生活の向上) がんばる勉強・読書(学力の向上) しっかり仕事(生き方・キャリア教育の推進) コミュニケーション(地域連携・仲間づくりの推進)
----------	---

3 本年度の重点目標	①児童が主体的に学習や生活、学校行事等に関わる組織づくりと手立てを工夫し、児童の「知・徳・体」の向上を目指す。 ②「ひがしっ子」の合言葉のもと、児童・職員・保護者・地域が目標を共有し、連携を深めながら、児童の「知・徳・体」の向上を目指す。 ③キャリア教育推進のための手立てを確立し、児童の「志」の確立と自己有用感の向上を図る。 ④業務改善・教職員の働き方改革による、ゆとりある教育活動を推進する。
------------	---

4 重点取組内容・成果指標	中間評価	達成度	最終評価	学校関係者評価	主な担当者
---------------	------	-----	------	---------	-------

(1)共通評価項目						学校関係者評価		主な担当者		
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	中間評価		最終評価				
				進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果		評価	意見や提言
●学力の向上	●全職員による共通理解と共通実践	●学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教師80%以上	・学期ごとに校内学力向上研修会を行い、マイプランの計画・振り返りを行う。	B	・全国学力調査の結果分析を行い、マイプランの取組の追加について共通理解を図った。 ・各自のマイプランについて振り返り、修正・追加をし、指導に生かしている。	A	・マイプランについてのアンケートは、100%。 ・県学習状況調査の結果では、8つの教科中7つの教科で対県比1以上となった。残りの1つの教科も昨年度より大きく向上した。	A	・小規模校ならではの、一人ひとりの個に応じた指導の結果が高い数値(県を上回る)として表れている。 ・学習状況調査の結果、県平均を上回る教科が多い。児童の学習意欲の高まりが認められている。	学力向上CO
	○国語科を中心としながら全教科で、自分の考えを書く活動を取り入れる。	○振り返り、「自分の考えを相手に分かるように工夫して書くことができた」と肯定的な回答をする児童の割合が70%以上を目指す。	・授業の中で必ず1回は児童の書く活動を入れる。	B	・授業の中盤や振り返りで自分で考えたことや、友達の見聞を聞いて考えたこと、この時間で身につけたことなどを書く活動を確保し、書かせている。	A	・教師によるアンケートは100%で、児童のアンケート「授業中に、自分の考えを書くことができています。」で肯定的割合が93.5%と高く出ている。	A	・受け身ではなく、自分も考え他者の意見を聞くことで、いろいろな気付きができるようになってきている。 ・自己を主張できる子が育っている。	研究主任
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○道徳に関するアンケートにおいて肯定的な回答をした児童80%以上	B	・道徳や人権・同和教育の研修を協働して行い、授業実践を深める。 ・外部講師などを積極的に招き、児童に生き様を考えさせる。	A	・外部講師などを積極的に招き、児童に生き様を考えさせる取り組みができた。児童の感想でも90%の子が、ねらいに迫ることができた。 ・ふれあい道徳は、コロナ感染防止のため参観日を実施できなかったが、人権学習は全クラス取り組むことができた。	A	・高齢者疑似体験、全員のランナーとの交流などの体験で思いやりや心が育っている。 ・コロナ禍でも状況に応じて東唐津小ならではの体験活動・心の教育などが仕組みられている。	人権・同和教育担当
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	●いじめ防止等(いじめの定義、いじめ防止等)についての取り組み、事業対処等)について、組織的対応ができていますと回答した教師85%以上	○日頃から児童の様子をしっかりと観察したり月1回のアンケートを実施し、その内容を管理職や教職員が共有したりして、早期発見早期対応に組織で取り組む。	A	・いじめ防止等について、組織的対応ができていますと回答した教師が100%。 ・毎月月末にアンケートを実施し、その結果を全ての教師で共有して共通理解を図っている。	A	・教師によるアンケートは100%で、児童のアンケート「みんなが仲良くして、いじめをなくそうとしている。」で肯定的割合が97.8%と高く出ている。	A	・アンケート調査だけではなく、困ったときに直接先生に相談できる雰囲気があり、安心できる。 ・いじめ事案への対応のスムーズさ、丁寧に感じている。	生徒指導
	●児童生徒の自己肯定感を高め、自己有用感の得られる環境の充実	○アンケートにおいて将来の夢や目標を持っているに肯定的な回答をした児童80%以上	○ソーシャルスキルトレーニングを活用し、他者とのより良い関係を築くことや自身を知ることの大切さを児童に身に付けさせる。 ・児童の情報を全職員で共有し、SCやSWとのスムーズな相談、面談につなげる。	B	・ソーシャルスキルトレーニングは、朝の時間を活用し、担任が取り組みやすいようワークシートを準備した。 ・各担任等と常に情報共有し、困り感を抱えている児童を把握し、保護者を含め、相談や面談につなげている。子ども理解研の中で、情報の共有をしている。	A	・教師によるアンケートは100%で、児童のアンケート「一人ひとりの子どもが大事にされている」で肯定的割合が95.7%と高く出ている。 ・児童の情報を全職員で共有し、困り感を持つ児童や保護者を把握し、SC.SSW等に繋ぐことができた。教師によるアンケートは100%で、児童のアンケート「夢や目標を持ち、それに向かってがんばっている」で肯定的割合が89.1%である。	A	・児童アンケート結果にある「一人ひとりが大事にされている」と感じる割合の高さに驚かされる。何よりもこの言葉が教育の基本であると思う。 ・アンケートで大事にされていないと感じている児童がいることが気になる。 ・教師の言葉かけ次第で児童のやる気、自己肯定感などの高まりが大きく左右されている。親は叱ることが多く反省する。	教育相談
●健康・体づくり	①「運動習慣の改善や定着化」	①授業以外で運動やスポーツを行う時間が1週間で420分以上の児童80%以上	①朝ラン5分、昼休み35分、放課後20分合計60分以上の運動を呼びかける。	B	・昼休みはよく体を動かすことができています。 ・放課後に運動する児童が少ない。 ・朝ラン等への意欲を喚起する工夫を引き続き行う。	B	・昼休みはよく体を動かすことができた。 ・放課後に運動する児童が増えた。 ・新型コロナウィルスの影響で、朝ランの実施回数が少なかった。	A	・昼休みの外遊びのこともとて嬉しそうに話すことがあった。 ・休み時間に外で遊ぶ児童の姿をよく見かけた。感染症対策への配慮も感じた。	体育主任
	●「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」	●「健康に食事は大切である」と考える児童生徒80%以上	・給食指導に全職員で取り組み、マナーを守り、給食時間内完食を呼びかける。	A	・給食指導は全職員で取り組み、時間内完食を呼びかけることができています。 ・朝食喫食率は、95%以上。アンケートは、今後実施する。	A	・給食指導に全職員で取り組み、マナーを守り、時間内で完食するよう声かけができた。 ・教師・保護者によるアンケート「健康・体力づくり」で肯定的割合が100%、「健康に食事は大切である」と考える児童は100%である。	A	・給食の時間を楽しんでいる様子がうかがえる。 ・アレルギー等への取組みにいて知りたいたい。 ・給食指導も全職員で取り組んでいることが結果として表れている。	食育担当
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	・時間外勤務時間の自覚と定時退勤日を週1回以上設定。	A	・全ての職員が、時間外勤務時間の上限を遵守することができた。今後一層、定時退勤日の徹底を図っていく。	A	・全ての職員が、時間外勤務時間の上限を遵守することができた。また、アンケートの結果、全ての職員の働き方改革の意識は、高まっていた。	A	・学校長の働き方改革への考えに共感し学ぶことが多い。職員にも浸透していると感じる。	教頭
	○ICT利活用推進	○授業でのICT利活用80%を目指す。	・電子黒板の活用の推進。一人一台タブレット端末の有効活用。	B	・授業でのICTの利活用は進んでいる。 ・一人一台タブレット端末の活用に工夫が必要。	B	・授業でのICTの利活用回数が増えた。 ・一人一台タブレット端末の活用回数が増えた。	B	・ICTの活用法、効率よい利用についての課題はどの学校でもある。着実に有効な活用が増えることを期待している。 ・校内でのリモート授業だけでなく、自宅でのリモート授業の試行を実施し新たな問題への対応を備えておく。	情報活用CO

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目						学校関係者評価		主な担当者		
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	中間評価		最終評価				
				進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果		評価	意見や提言
○表現力の育成	○書く活動の充実	○作文等の作品募集に参加したと答えた児童が80%以上。	・児童が夏の読書感想文に全員取り組む。 ・児童が週に1回は日記を書く。 ・各種応募作品は該当学年に紹介し、短歌や俳句、標語などに応募した。	B	・読書感想文は3・4・5年が取り組んだ。 ・日記についてはどの学年も取り組んでいる。 ・各種応募作品は該当学年に紹介し、短歌や俳句、標語などに応募した。	A	・からつ児童生徒俳句「川柳大会」に89.6%の割合で参加できた。 ・国語の授業で書く活動が多くあり、児童の作品が教室や廊下に掲示されている。	A	・書く活動の充実を実現する中で、保護者から「宿題が多い」との意見があった。保護者へ説明し、理解と協力を得る取組が必要である。 ・作品が掲示され自己肯定感が高まり児童は嬉しいと感じている。保護者も掲示物を真っ先に拝見している。	研究主任
◎「志」を高める教育	◎自身の夢や将来のための身近な目標に対し、真剣に取り組む、成長しようとする姿勢を育てる。	◎夢や目標を持って、学習や行事等に取り組めた児童85%以上。	・学習や行事ごとにめあての確認と振り返りを行い、児童が自分事として取り組むことができるようにする。	B	・10月実施のアンケート調査では、肯定的に回答した児童が87.5%、保護者54.8%であった。コロナ禍で、授業参観等、保護者への情報発信が不足している。今後他よりやHPで随時紹介していく。	B	・2月実施のアンケート調査では、肯定的に回答した児童が84.8%、保護者85.7%であった。様々な児童の取組を学校内外で発信することで保護者の理解が進んだと考えられる。児童もめあてを持って主体的に活動できた。	B	・コロナ禍で参観が十分にできなかった。是非、取り組み状況を参観したい。 ・キャリア教育として職人や弁護士、医師等との体験活動を仕組んでいることをもっと周知する。	校長
○地域連携・地域を愛する人材育成	○PTAや地域と交流する活動への積極的な参加	○交流活動で地域のよさに気付く児童85%以上。	・松原保全活動や海洋教育パイオニアスクールプログラムを自分事として考えさせ、必要感を持たせる。	A	・10月実施のアンケート調査では、肯定的に回答した児童が81.3%、保護者80.6%であった。コロナ禍で、交流が実施しにくい中、学校独自の活動を充実することができている。	A	・2月実施のアンケート調査では、肯定的に回答した児童が84.8%、保護者85.7%であった。感染症対策を行いながら、交流を充実させることができています。	A	・学校職員の地元愛が強く、地域活動にも積極的にその姿が児童に反映している。 ・行事が中止になる中で、地引網・花植え・松原清掃など東唐津小ならではの体験ができ良かった。	教頭

●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育

5 総合評価・次年度への展望	①児童の主体的な学びのために指導方法の工夫・改善を行った結果、児童の書く力が伸び、学力状況調査で好成績を残せた。今後、児童の「SDGs教育」の充実のために、カリキュラムマネジメントをすすめ、校内研での共通した取組を一層充実させる。 ②「ひがしっ子」の合言葉とともに、児童の「出番・役割・承認」を充実させ自己肯定感を高めてきた結果が表れてきている。今後、特別支援教育の充実を図り、個に応じた指導・支援のさらなる実現を図る。 ③キャリア教育推進のために、様々な体験活動を充実させるとともに、キャリアパスポートを継続的に活用し、家庭と協働したキャリア教育の工夫や保護者への説明の充実に努める。 ④業務改善・教職員の働き方改革への職員の意識が変革しつつある。今後、生み出された時間の有効活用方法を探り、職員の魅力を一層伸長する。
----------------	---